

コンニャクの優良系統を探して

北相地区事務所

コンニャクは多くの地域直売所で販売されていますが、特に在来種の生イモを原料にしたものは、食味が良く人気商品です。

そこで北相地区事務所では「在来種」の球茎（コンニャクイモ）を県内から採種し、その中から優良な系統を選抜する試験を始めました。

コンニャクの品種には国内で古くから栽培されてきた「在来種」「備中種」、大正時代に中国から輸入された「支那種」、「はるなくろ」「赤城大玉」などの育成品種があります。この内、「在来種」「備中種」「支那種」の三種はその正確な来歴が明らかではありません。

一般に在来種は早生で球茎の品質がよく生イモからの精粉⁽¹⁾の歩留まりが高いという長所があります。反対に球茎、生子⁽²⁾の収量が少なく各種病害（腐敗病など）に弱いという短所があります。これらのことから精粉の歩留まり、耐病性、収穫量に関して優良な系統を選抜する計画です。



- (1) 精粉：マンナン以外の不純物（デンプンなど）を除いたもの
- (2) 生子：球茎から伸長した吸枝のうち養分が蓄積されたもので頂芽を有す

生ごみ堆肥の塩分濃度の簡易測定法

農業環境研究部

生ごみを堆肥として有効利用していくことが求められていますが、生ごみを材料とした堆肥は、塩分含量が高いのではないかと不安があり、利用が進んでいません。

そこで、現場で行うことができる生ごみ堆肥（生ごみ処理物）中の簡易な塩分（塩化物イオン Cl⁻）濃度測定法について検討しました。その結果、生コンクリートおよび細骨材中の塩化物イオン測定試験紙を用いることによって生ごみ堆肥（生ごみ処理物）中の塩分濃度評価が可能であることが明らかになりました。

本方法により、生ごみ堆肥の利用時に不安材料とされる塩分含有量を簡易に判定することができます。

通常の生ごみ堆肥の指示値（サンプル含水率 10% の時）は、4 程度以下で塩分濃度はそれほど高くない製品が多い傾向にありました。一方、指示値が 6 程度以上になる資材は塩分濃度が高いので、使用しないほうがよいと考えられます。

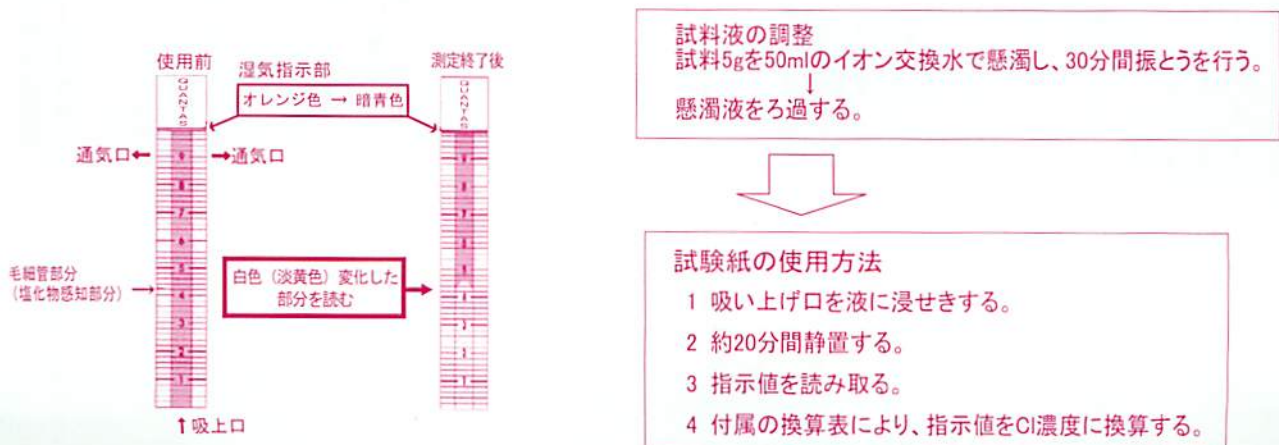


図 試験紙の概要と試験紙による生ごみ堆肥（生ごみ処理物）塩分濃度測定の手順